森林と人をつなぐかながわ森林インストラクターの会　　平成２４年　４月　１日発行　通巻第１９３号

森のなかま

２０１２年　４月号
NO.４８（継続１９３）

ＮＰＯ法人かながわ森林インストラクターの会　http://www.forest-kanagawa.jp　　発行人　久保　重明
〒243－0014　厚木市旭町１丁目８－１４・グリーン会館　ＴＥＬ046－280－4101・ＦＡＸ046－280－4102

あなたの力で成功させよう植樹祭！！

緑の祭典“かながわ未来の森づくり”2012 開催にあたってのお願い

（財）かながわトラストみどり財団・みどり森林課　課長　内海　規

かながわ環境大使
白井貴子さん

平成 22 年に神奈川県で開催した第 61 回全国植樹祭を記念し、県民の皆様との協働の森林づくりを推進していくため、県民、企業、団体、行政が集うイベント「緑の祭典“かながわ未来の森づくり”2012」と銘打って県植樹祭を開催します。開催日は平成 24 年 5 月 27 日の第４日曜日で、神奈川県では、この 5 月の第４日曜日を「かながわの森へ行こう！」の日として定めています。

（財）かながわトラストみどり財団は、神奈川県、南足柄市とともに主催者の立場です。開催場所は、全国植樹祭南足柄会場跡地、あの雨の日に思い出を作った方もそうでない方も新たな思い出を作ってみませんか。復活した県植樹祭は、隔年に開催することになっていますので、このチャンスを活かしてください。

さて、神奈川県森林インストラクターの皆さんの役割は、大雄山駅からバスに乗って会場までの案内、植樹指導、水源林探訪会の引率説明など皆さんの得意分野でイベントの重要な部分を担って頂きます。復活した第1回目の県植樹祭成功の鍵は、皆さんが握っています。ぜひ進んで参加してください。そして早めに、「ネットワーク活動」で申し込んでください。また、会場でのクラフト製品などの出店も行って頂くことを予定していますのでよろしくお願いいたします。

これからも県民との協働による森林づくりを推進するため、財団と「かながわ森林インストラクターの会」は車の両輪として、これまで以上の連携強化を図って行きたいと考えておりますし、会の発展を大いに期待するところです。会の充実とともに、県民、企業・団体の要望の多様化に対応し、活動の回数もますます増えていきますので、活動参加者との信頼関係を築き上げ活動を継続して頂くためにも、伝統の結束力により多彩な才能集団としての力を十二分に発揮してくださるようお願いいたします。

そして、今年度も安全第一をモットーに森林づくりボランティア活動の指導をお願いいたします。

プログラム（予定）
９：００頃　　伊豆箱根鉄道大雄山駅集合
９：３０～１０：００　参加者植樹
１０：１０～１１：２０　式典等
（子供太鼓・ボランティア表彰・白井貴子さんミニライブなど）
１１：２０～１２：３０　昼食
１２：３０～　水源林探訪会
（希望者のみ）
１４：３０頃　大雄山駅解散

第１回神奈川チェンソーアート競技大会で 水源の森林づくり街頭キャンペーンを実施

普及啓発部会長　森本　正信

平成 24 年 3 月 4 日（日)、標記の競技大会が、足柄上合同庁舎グラウンドで開催され、いつものキャンペーンとグッズ販売とで出店しました。

主催：神奈川県足柄上地域県政総合センター　・事務局：ＮＰＯ法人ウッドボイス

当日は、曇天で寒い一日でしたが、目新しいイベントだったせいか、まずまずの人出に恵まれました。私どものコーナーでは、下記の新しい工夫も試すことが出来ました。

チェンソーアート製作中

○工作受付での、整理券発行方式
○どんぐり工作での、前処理の徹底によるオペレーションの効率化
○一部、シュロバッタの試行（バンジータイプの方が、時短上、有効か)

木工グッズ販売については、かながわトラストみどり財団より借用の大型テントで「ＮＰＯ法人丹沢森の仲間たち」と協働することも出来、集客力もアップしていました。

見事な出来栄えのフクロウたち

全体として、財団の全面的なご支援もあって、コンパクトな取り組みが出来ました。また、無料での体験イベントの優位性を、緑の募金力アップにつなげられたら、とも思いました。

来年は、こうした出店協力に加え、多彩な人材を擁する本会として、競技大会の参加者に仲間の会員を送り出したいものです。

写真提供：伊藤恭造氏（7 期）

ヒヤリハットの事例　―ハチ毒の怖さー　堤　洋＜8 期＞

思い出したくもない体験ですが、ハチ毒の怖さに附いて自省を込めてまとめました

場　所　（九州の有名観光地の近傍）

国道沿いの耕作放棄された棚田の広がる傾斜地で、国道より北側へ 40～50m、比高 30m程度の棚田の畦道上(棚田は放棄されて数年が経過していた)

時　期　（凡そ 35 年前）

9 月上旬、晴天続きの 14 時頃

状　態

棚田上部が牧草地で其処に現れた露頭を観察に出向き、棚田の畦道を下っている折

被害遭遇時

4 人パーティーで棚田の中程右手にアカメカシワの 4～5mが見えた時､先頭付近からスズメバチの大群が舞い上がってきた。先頭、2 番手は棚田の雑草に跳び込んだ。3 番手（小生)、4 番手（同僚）は何が起きたか判らず躊躇した。この時にスズメバチの大群に襲い掛かられた

ハチの大群に上半身を囲まれながら棚田下方の雑草の中にジャンプして飛び込んだ｡後方から同僚も同じように飛び込んできた

直　後

しばらくの間、大群が興奮状態で飛び交っていた（時間は不明）が、気が附くと飛び去っていた落ち着いた後、起き上がってみると両手指、肩、後頭部（頭髪の中）に刺し後があり、頭髪の中から出てきたのが**スズメバチ**であった

同僚は、刺された個所が多く失神状態であったため先頭の二人が担いで国道まで降ろした｡通りかかった乗用車に頼んで至近の外科医まで運んで頂いた

処置後、判明したが小生は 8 か所、同僚は 12 か所刺されていた。ハチの針も一部残っていた

その夜、同僚は宿泊先で再度失神したため救急搬送で再処置を受けた

事　後

同僚はその後順調に回復した。翌日のみ休日に振替、その翌日から仕事を再開した

小生は、左肩甲骨上部の刺跡がＢＣＧ接種後のように膿み回復するまで４～５カ月を要した。被害遭遇からほぼ１年を経過した頃、全身が紫色の蛇皮模様に蓋われかゆみが出た。大学病院に駆け込んだが、担当の医師が診断できず、傍の老齢の看護師がハチ毒による肝障害と判断した。若手の医師では診断が出来なかった。この後、治癒まで約２週間を要した

対　策

長袖、長ズボン、軍手、帽子の厳守に変わりはないが、軍手はしていた、ヘルメットも被っていたのに被害にあった。***ハチの針は軍手（布）を通しており***、ヘルメットの間から入った***ハチは髪の毛の中で暴れた***ことから、“その後”

革製の手袋、ヘルメットの下は**紙製の帽子又はタオルで髪を包んだ**。同時に、**首にはタオルを巻く**ようにした。首筋は汗が附いているから狙われやすいという

イラスト：大塚晴子（広報部）

ハチに襲われた場合の忠告

医者の話では、***前額部から顔面にかけて刺されると命にかかわる***

しかし、後頭部、手足、背中なら手当てをすれば命に関わることはないとのこと

心臓に近い体幹部も刺されると危険だという

帽子は頭髪にハチが潜り込むと暴れまわるので絶対に必要

後日談、**被害遭遇時にスプレー式の殺虫剤を撒いたというが、興奮したスズメバチには効果が無かった**ということです。多分先頭の二人のどちらかが巣を蹴飛ばしたものと推測しています。当時は、まだ２０代の中半で毎月最低１週間は日本のどこかに出張している頃でした

私の認識

野鳥その９７　　高橋　恒通

今月のフクロウ目フクロウ科の野鳥紹介は夏鳥のコノハズク（漢和名：木葉木菟、英名：Oriental Scops Owl,体長＝20 ㎝）についてであります。

体色は♂♀同色で、全身灰色がかった暗褐色で複雑な斑紋があります。また全体が茶褐色の“赤色型“と呼ばれる個体もあります。

そして体のわりには目立つ羽角があり、警戒時には羽角を立てるそうです。

コノハズクは、我国で見られるフクロウ科の野鳥の中で最も小さなフクロウです。寸法的に近い別の野鳥で例えるならば、尾羽を除いたヒヨドリをイメージして下さい。私は剥製でしか見ていませんがスモールサイズです。

夏鳥として我国の九州以北に渡来しますが、西南日本では越冬例もあるそうです。

棲息環境は山地の林が主です。営巣は殆どが樹洞と考えられております。

日中は良く茂った枝上や樹洞内など薄暗い処で休息し、時折細目を開けたりします。

活動は夕暮れから始まり、夜行性の飛んでいる大形の昆虫類を捕るそうです。

繁殖期の夜間に♂は“ブッキョッコー　ブッキョッコー”と繰り返し啼きます。その声は夜の静寂（シジマ）の中で大変に良く透ります。

私も日本野鳥の会沼津支部が行った愛鷹山（アシタカヤマ）での「夜の探鳥会―コノハズクやヨタカなどー」の折に聴きましたが、暗闇の中を能く透る声で確かに“ブッキョッコー”と私には聞こえ、決して“ブッポウソウ”ではありませんでした。

コノハズクが啼き始める頃に、同じく夏鳥で青緑色の金属光沢をしたブッポウソウ目ブッポウソウ科の野鳥「ブッポウソウ」が南から渡って来ます。この野鳥も茂った大木を好み、社寺林などでも目撃され、昼間は時折“ゲゲッ”と鳴きます。夜は“ブッキョッコー”と鳴くのもこの野鳥だと思われていました。然しそれが間違いだと判ったのが昭和７年、1932 年です。

ブッポウソウの鳴き声に疑いを抱いていた或る人が、山梨県下で“ブッキョッコー”と鳴いている鳥を撃ち落したら、それがコノハズクだったので、夜の山中で万歳三唱をして狂喜乱舞した、と言う伝説が残っております。

そして又、1935 年（昭和 10 年）に愛知県下の鳳来寺山で、ＮＨＫが“ブッキョコー”の声の録音取材の折に、声の主がコノハズクである事が確認されたとのエピソードもあります。

従って、今ではブッポウソウは「姿の仏法僧」コノハズクは「声の仏法僧」と言われて業界ではハッキリと区別されております。

所で、私は不幸にして神奈川県下に於いてコノハズクを未だに見聞きしておりませんが、“丹沢や箱根で啼き声を聞いた事がある”と私の古い鳥友が言っていました。然し、その鳥友は現在はケンタッキー州に住んでおりますので以後の情報はありません。

さて、仏教では、仏、法、僧、は三宝と言われていますからコノハズクを「聖なる鳥」との認識に加え、昭和 10 年の鳳来寺山での出来事で全国に知れわたりました為、コノハズクは愛知県の県鳥に指定されたものと私は認識しております。聞き及ぶところ、近年はコノハズク縁（ユカリ）の鳳来寺山では“ブッキョッコー”の声はまず聴けないそうです。

因みに愛知県の県木は、ハナノキ（ハナカエデ）で、県花はカキツバタです。

＜参考資料＞

◎　山渓ハンディ図鑑７　日本の野鳥
写真・解説/叶内拓哉、分布図・解説協力/安部直哉、解説（鳴声）/上田秀雄
山と渓谷社

◎　山渓カラー名鑑、日本の野鳥
編　高野伸二、解説　浜口哲一、森岡照明、叶内拓哉、蒲谷鶴彦
山と渓谷社

◎　フィールドガイド１、日本の野鳥、
竹下信雄著　　小学館

◎　イラスト　コノハズク　大塚晴子（広報部）

。

お詫びと訂正

『森のなかま』本誌３月号Ｐ５の右欄下、パートナー林保全活動（枝打ち）参加が富士通エフ・アイ・ピー（株）様とありますが、正式には富士通（株）神奈川支社様です。掲載ミスに対してお詫びと訂正をさせて頂きます。

広報部　Ｍ

～童話の世界が森からやってくる～　96歳の我が家のおじいちゃん

文と写真（広報部）
小沢章男

素晴らしいおじいちゃんを皆様にご紹介します。
＜　６期＊斉藤武久さんのお義父さんです。＞
毎日毎日、木の枝を利用して童話の世界を作り出している。材料は丹沢の森の間伐材を自ら出かけて集めたり、近くの小川（茅ヶ崎市内小出川）の土手の梅や桜が剪定され捨てられてしまう小枝を拾い集め「ぐりとぐら」「きつね」「かちかちやま」「いなばのしろうさぎ」「サルカニかっせん」「14 匹ねずみのあさごはん」など童話や絵本の中から題材をみつけ作品に仕上げています。

斉藤さんの影響やご家族の薦めで 89 歳から作品作りを始め今日まで多くの作品を近隣の保育園、幼稚園、学校、知人に差し上げ喜んでもらえることが自分の励みと喜びとしているそうです。多くの作品を自宅に置くだけではもったいないと、ご家族に薦められ今回展示会を開く事になりました。

素晴らしいおじいちゃんです。

＊開催期間は作品を前にして童話や絵本の読み聞かせも行います。
日時：　５月 11 日（金）13 時～17 時
　　５月 12 日（土）10 時半～17 時
　　５月 13 日（日）10 時半～17 時
会場：茅ヶ崎市民文化会館　第２会議室
　　茅ヶ崎市茅ヶ崎１－１１－１
　　＊駐車場はあります。
　　ＪＲ茅ヶ崎駅下車　徒歩５分
お問い合わせ：＜斉藤武久　さん＞
　　０４６７－８３－６７２３
　　０８０－３０９０－３１７７

活動短信　１/20～２/24

森林学習事業

日　１月 20 日（金）９時～13 時　曇り（早朝雪）
場　小田原市立芦子小学校　体育館
参　５年生　80 名　教師　３名他 13 名
スタッフ　小田原市役所　環境部環境政策課
藤澤副課長　勝俣様
二ヶ市町組合　杉崎様
イ　Ｌ足立④、竹島③、森本⑤、齊藤⑥、坂齊⑦、山崎⑦、野田⑧、三浦⑧、小沢⑨、村井⑨、波多野⑪、

当初の予定では小学生を対象とした環境学習の一環としての森林学習であり、久野（ニヶ市町の森）で間伐を行い、間伐材を利用したコースターづくりの予定であった。しかしながら１ヶ月以上も雨がなかったにもかかわらず、当日は生憎の降雨のため芦子小学校の体育館での活動となった。

＜活動内容＞

① 水源林紙芝居（かながわ水源の森林づくり）
インストラクターPC(CD-R)/プロジェクターを使用して森林の役割について説明。
② 電動丸鋸でコースターづくり演示・・・
二ヶ市町組合員、小学生は 10 班（8 名/班）に分かれ見学し、一人１個のコースターを受け取り
③ ノコギリでのコースターづくり。
各班ごとで用意された丸太を切ってのコースターづくり
丸太切りのあと、一人２個用意された紙やすりを使って綺麗なコースターとした。
④ シュロバッタづくり
インストラクターが事前に用意したシュロを使ってシュロバッタづくり。80 名中 10 名程度の子供はインストラクターの指導で自力で作成できた。

活動中は各班にＰＴＡ（保護者）が補助者としてついていた。一連の活動後、学校の家庭科室に移動し、班ごと（含むインストラクター）でまとまり、小田原市環境ボランティアの方々で準備された豚汁とともに昼食を取り、終了した。１２月から好天が続いていたため、雨天時対応の詰めが十分ではなかったが、スタッフ、インストラクターの協力により、子供達は活動に満足した（楽しかった）との感想であった。　（記　７期　坂齊）

「平成 23 年度　川崎市里山ボランティア育成講座」第６回

日　１月 21 日（土）９時～15 時　雨
場　川崎市多摩区宿河原・川崎市緑化センター
参　一般市民による講座　メンバー22 名、
講座以外の市民　４名
スタッフ　川崎市公園緑地協会職員　野牛様他 2 名　川崎市緑レンジャー篠崎様、岡田様、
イ　Ｌ金森⑩、清水⑧、小林⑩、大塚⑪、

全 6 回講座の最終回。朝から風と雨模様で肌寒い。屋内で明治大学　倉本宣教授から「里山保全活動における新しい考え方」を講義頂く。広大な企業跡地を生物多様性に配慮した里山にする計画など、具体的な内容で興味をもって聞くことができた。前回の講座で伐採したコナラの原木に椎茸の植菌を行う。きのこアドバイザー野牛雪子氏（川崎市公園緑地協会・神奈川県森林インストラクター）から森産業（株）の資料を用いて栽培方法について復習する。野外のビニールハウスに移動して、マーキング、穴あけ、駒打ちを行う。作業は分担して行わず、各自が全ての工程を経験できるように配慮する。全員が穴あけを経験してコツを掴んだようだった。ホダ木はセンター内の木陰に運び仮伏せする。予め仮伏せしてあった昨年のものは本伏せとする。古い本伏せも移動させる。年数の違うホダ木を運搬して、その重さの違いが体験できた。午後は屋内で育成講座全般の振替えを行う。各班、インストラクター司会のもと自由に意見を出し合い代表が発表を行った。これと並行して、はぐくみ工房ファシリデーター竹迫（たかば）和代氏にて発表された意見の講評や発表では漏れてしまった意見の聞き出しが行われ、意見が模造紙に視覚的に分類されて纏められた。講座メンバーの発言は思ったより活発で、終了後の活動団体への参加や来年度講座のヒント、椎茸が収穫された際の同期会など、多岐にわたって建設的な意見が出され、この講座が有意義であったことが改めて認識できた。修了式として川崎市公園緑地協会理事長、碇　親二氏から修了証を授与、挨拶をいただき今年度の講座は終了とした。
（記　10 期　金森）

平成 23 年度・県民参加の森林づくり体験講座Ｅ

日　１月 28 日（土）８時～13 時半
場　足柄上郡中井町比奈窪（中井中央公園）
参　一般県民　約 70 名
スタッフ　中井町　井上様
財　豊丸様　籾山様　　看　青木様
イ　Ｌ金森⑩、落合③、足立④、善波⑥、小野⑦、野牛⑧、牧野⑩、柴⑪、松本⑪、

県民参加の森林づくりは今回の体験講座で今年度最後となる。朝方地震があったため電車の遅れによりインストラクターが 10 分ほど遅れたが、参加者には大きな混乱はなく、秦野駅から現地の中井中央公園に貸切バス２台で向かう。約 20 分で現地に到着、現地集合者の受付、オリエンテーションの後、約 2 時間竹林整備を実施。昼食後、リーダー（金森）からミニ講座を行う。バスで秦野へ向かい無事解散。

定員 40 名を大幅に上回る 70 名の参加者やミニ講座終了後の竹林に関する沢山の質問は、竹に対する関心の高さが伺える。（記　10 期　金森）

森林の働きと人との関わり

日　２月２日（木）８時半～12時半　晴れ
場　厚木市立清水小学校（体育館・理科室・校庭ビオトープ）
参　５年生　５組　175名、教師　５名
財　古舘様
イ　Ｌ武者⑦、高橋③

体育館において挨拶、自己紹介の後、事前に学校に提出してあった資料に従って、高橋と武者とでレクチャーを行った。約30分の集合レクチャーは武者が持参した、大鎌、手鎌、鉈、チェンソー、百足梯子、ヘルメット等は子供達にとって初めて見たり触れたりする育林施業に使われる道具だった為に大変に興味を示してくれ好評だった。

続いて、理科室１で流水実験（街頭キャンペーン用）、理科室２で映像（寄水源林へようこそ）と組毎に別れて森林の働き機能を学習して貰った。

最後は校庭に出て学校のビオトープと校庭に隣接する妻田薬師の楠の大木（樹齢500年）その近くの清水の池を組毎に交互に案内・説明し、森林、樹木や水の大切さを教えた。久しぶりに子供達と一緒に美味しい給食を共にし今日の授業は無事に終了した。　（記　３期　高橋）

自然観察（フォローアップ研修）

日　２月４日（土）10時～15時　晴れ
場　県立21世紀の森
参　NPO法人　藤沢グリーンスタッフの会37名
スタッフ　藤沢市役所まちづくりみどり推進課　山田　様
（株）足柄グリーンサービス　杉崎副所長
財　豊丸様
イ　Ｌ高橋③、黒澤⑧、小沢⑨、

森林ふれあいセンターにおいて、県立21世紀の森・杉崎副所長によりオリエンテーション開始。天然の森コースや21世紀の森の環境について説明、参加団体の藤沢グリーンスタッフの会、国分様よりインストラクターの紹介を受け、快晴に恵まれ３班に分け出発した。保全活動を中心に活動されている参加者の皆さんと和やかに歩くも、冬季の山道はさすがに花や緑も少なく、木々や花を説明しながら持参した資料を見ていただき迎える春に再度山へ訪れて頂きたい事をPR。

２か所の展望所からは遠く相模湾や富士山の絶景を堪能した。昼食後、森林館や木材工芸センターを見学し、本日の観察会を終えた。　（記　９期　小沢）

ふじの体験の森“やませみ”間伐体験

日　２月９日（金）９時45分～14時20分　晴れ
場　ふじの体験の森“やませみ”
参　相模原市立当麻田小学校　５年生66名　教師他　５名
スタッフ　やませみ職員　松本様他５名
財　古舘様　籾山様
イ　Ｌ松山⑩、島岡③、佐藤⑤、小野⑦、武者⑦、鈴木⑧、内野⑨、

テーマは「ふるさと自然体験教室に宿泊する際の活動として、やませみから徒歩10分程度のところにある大日野原の森で、間伐体験を行う」久しぶりの快晴、９時45分よりはじめの会、道具を付けて森へ移動。昨夜来の冷え込みで経路は凍っていたが、森の中は暖かい。10時50分～12時30分まで間伐、玉切り、コースター作り。続いて、鈴木⑧さんがブリ縄実演を披露し、講評を博した。13時やませみに戻り午前の間伐体験は無事終了。昼食後はグループミーティング、活発な質問に熱が入り所定の時間を20分余りオーバーし14時20分終了。児童たちは、すぐさま、夕食（カレーライス）の準備に取り掛かっていた。　（記　10期　松山）

自然観察部会　林道てくてく

日　２月24日（金）９時～15時
場　湯河原　白銀林道
参　22名（男性20名・女性２名）申し込み52名
スタッフ　神奈川県森林協会　茂木様、浅野様　水野様、中野様、村上様
イ　Ｌ鳥飼⑪、女川⑨、海野⑩、小林⑩、杉崎⑩、

前日は雨、翌日も雨の予報だったが、当日は幸運にも天気に恵まれた。参加者が２２名とやや少ないのが残念だが、参加者は元気いっぱいだった。いつもの森林探訪とは異なり参加者のうち女性は２名のみ、あとの２０名は男性というのも珍しかった。湯河原駅で受付後、路線バスに全員乗り込んだ。「しとどのいわやバス停」で下車し、椿台にてオリエンテーションののち、班ごとに出発した。林道両側に生育している植物の冬芽、葉痕、果実、ヒノキ、スギの人工林、斜面に勢力を広げているヤシャブシ、ハギなどの肥料木やカラスザンショウ、ヌルデなどのパイオニア樹種をゆっくりと観察した。

昼食は、幕山の柱状節理を眺めながら、明るい林道で思い思いにとった。１００年生のクスノキの純林を仰ぎ見たあと、幕山の梅林で解散した。寒さが続き、梅は例年よりも開花が大幅に遅れており、ほとんど咲いていなかったのは、参加者にとって残念なことだった。　（記　11期　鳥飼）

出発前のオリエンテーション風景

やどりき水源林 ミニガイド

３月のトピックス

11 日水源林にＨ２４・森の案内人が 50 名集合し説明会があり、午後は清掃を行いました。
25 日現在・ミツマタは３分咲きです。

４月の水源林

タチツボスミレがいっぱい咲き乱れます

「森の案内人」情報

●実施時間：毎週土曜・日曜・午前 10 時・午後１時１～2 時間程度（12 月１月２月休止）
●集　合：水源林入口ゲート前
●内　容：森林インストラクターが自然観察にご案内します。森林のしくみ・手入れなどについて説明いたします。
参加自由、参加費無料
＊10 人以上の団体は事前に下記までご連絡ください。
●問合せ：（社）かながわトラストみどり財団　TEL:045－412-2255
fax:045－412-2300
● ホームページ：http://www.ktm.or.jp
● E-mal:midori@ktm.or.jp
● やどりき水源林までの道順
小田急線新松田駅または JR 御殿場線松田駅下車、富士急湘南バス「寄（やどりき）」行き乗車約 25 分。バス下車後（案内板あり）川沿いに徒歩 35 分。
寄大橋の右横が水源林ゲートです。

ｲﾍﾞﾝﾄ情報　＆　ご案内

春の地形・地質観察会 ～山北町・河村城址周辺～ 生命の星・地球博物館主催

日時：５月３日（木・祝）
10 時～15 時・小学４年生から大人 40 人・**申し込み締め切りは**
４月 17 日（火）申し込み方法は講座名・開催日・代表者の住所電話番号・参加者全員の氏名・年齢を明記・往復はがきにて郵送、
〒250－0031 小田原市入生田 499
生命の星・地球博物館企画普及部

◇森のなかま原稿募集◇

会員・購読の皆様からの原稿を募集しています。**＜広報全般についてのお問い合わせ＞**

小沢章男まで
Mail;a.ozawa@tbz.t-com.ne.jp
Tel;0467 -52-2191

＜電子配信担当＞　森　義徳
〒232-0053
横浜市南区井土ヶ谷下町 16－3-202
Tel/090-5433－7784
Mail:shinrin.inst.denshihaishin@gmail.com

送り先

＜電子メール・手書き原稿送り先＞
【本誌】村井正孝
〒226-0002
横浜市緑区東本郷 6-22-1-420
Tel/Fax：０４５－４７６－４１１２
Mail：murapu60dai@yahoo.co.jp
【別冊】水口俊則
〒250－0871
小田原市下堀 123
Tel/Fax：０４６５－４２－７２４０
Mai：minagold109@plum.plala.or.jp
【CC で】竹島　明
〒238－0045
横須賀市東逸見町３－７
Tel/Fax：０４６－８２５－９２８１
Mail2nahemi0818@kce.biglobe.ne.jp

～スミレ～
大工道具の墨入れに形が似ているのが名前の由来です。

山麓のオアシス
お気軽にお立ち寄りください
～お食事処～
町おこし芋焼酎「百年記」入荷しました。
こまち
―小田急線　新松田駅踏切際―

編　集　後　記

★三寒四温といいながら、春の訪れ未だ来ず。梅の開花がかなり遅れましたが、新聞記事から春の話題を贈ります。春は花の訪れですが、思えば、黄色の花が続く事感じていますか。福寿草、ロウバイ、マンサク、みんな黄色です。春の黄色 には、わけあるそうです。花は色を持つことで 動物や昆虫との関係を持つ。私見ですが、花の色が自然を巧みにリードして、生物の自然界を活動を活発にしているらしいのです。ミツバチも蝶も鳥も、この各色に目覚めて、子孫を残す大事な時期を失わないような動機づけがあるらしい。あの大災害があった地方も、今ごろは、黄色い花が咲いて、人々を和ましている事でしょう。　（鈴木松）

★啓蟄も過ぎ春分を迎えても相変わらずの寒さですが、
三寒四温を頼みにして、春を待つ今日この頃です。　（小沢）

★H24 年度の広報部に新しい顔ぶれが揃いました。10 期、11 期、そして 12 期の女性陣、ＰＣはもちろん、飲む、語る、笑う、猛パワーです。このパワーが広報活動を軸に、インストラクターとしての参加や、会の運営に発揮されることを期待します。　（村井）

◇年間購読のお申し込み

「森のなかま」年間購読をご希望の方は、郵便局備付けの郵便振替を利用してお申し込みください。
郵便振替口座 00230-0-2454
かながわ森林インストラクターの会宛まで購読料年２０００円をお振込みください。
振替用紙には、必ず、住所、氏名を明記してください。
振替用紙到着の翌月号から１２回／１年間お届け致します。
（頒　価　２００円　送料共）

編集人：村井正孝
事務局：竹島　明
広報部：小沢章男
水口俊則、　森　義徳、　真貝　勝、
鈴木　朗、鈴木松弘、大塚晴子
徳岡達郎、松本　保、加藤暖子、
赤崎さほり、永松裕子、
影の仕掛け人、